

## 欧米アパレル向け主要生産拠点で「GRS 認証」を取得

### — 人権、労働、環境への要求に対応できる生産体制を構築 —

小松マテーレ株式会社（本社：石川県能美市、代表取締役社長：中山大輔）は、アメリカのNPO法人 Textile Exchange が制定する GRS（Global Recycled Standard）認証を、2025年4月に日本の染色加工場として主管拠点で初めて取得いたしました。

今般、上記にくわえ当社の2つの国内工場においても GRS 認証を取得しました。これにより、欧米アパレルブランド向け製品を生産する主要工場において、国際基準に適合した生産体制を構築しました。

なお、当社では本年7月7日からイタリア・ミラノで開催される「ミラノウニカ」において、対象商品を発表いたします。このような「ミラノウニカ」での発表と合わせ、欧州においてデジタル・プロダクト・パスポート（DPP）への移行が加速する背景を踏まえ、この度のプレス発表に至りました。

※GRS…“Global Recycled Standard”の略。解説は後述。

### ■ GRS 認証を取得する拠点拡大の意義

当社は2025年4月、日本の染色加工場として主管拠点で初めて GRS 認証を取得しました。この主管拠点は、欧米アパレルブランドから需要が高まるリサイクルナイロン素材の加工を担う工場であり、サステナブル素材への対応を目的として認証を取得したものです。

さらに2025年12月には、リサイクルポリエステル素材を加工する工場、およびラミネート・コーティング加工を行う工場において、新たに GRS 認証を取得しました。これにより、欧米アパレルブランド向け製品を生産する主要工場で GRS 認証を取得したこととなり、素材から高機能加工まで一貫して、国際基準に適合した生産体制を構築しました。

このように当社は、欧米ブランドが求めるサプライチェーン全体でのトレーサビリティ、人権保護、適正な労働環境、化学物質管理に幅広く、かつ柔軟に対応できる国内有数の生産体制を実現しました。

### ■ 今後に向けた期待

欧米アパレルブランド向け製品を生産する主要工場が GRS 認証を取得したことにより、欧米ブランドとの取引拡大が期待されます。さらに、循環型素材の採用拡大や高機能・高付加価値素材へ

の展開が可能となります。

現在、欧州ではデジタル・プロダクト・パスポート（DPP）の導入が予定されており、製品の原材料、リサイクル材の使用状況、製造履歴、環境情報などのトレーサビリティがこれまで以上に求められる環境にあります。こうした動きに対し、当社では GRS 認証に基づきトレーサビリティの管理を行い、今後、DPP に対応してゆくための信頼性の高い情報を提供できる基盤構築を進めてまいります。

当社が取り組んでいる「QES（品質・環境・安全）マネジメント」と GRS 認証に基づいたサプライチェーンのトレーサビリティ管理を融合させることで循環型社会の実現に貢献してまいります。また、当社は欧州をはじめとする世界市場で求められるサステナブル製品を安定的に供給し、日本の染色加工業における国際競争力の向上へも努めてまいります。

## 【GRS 認証】

GRS 認証は、環境に配慮した繊維素材の普及・啓蒙を目的とするアメリカの NPO 法人『Textile Exchange』によって定められた国際的な自主基準です。リサイクル含有物や加工流通過程管理、社会および環境保全の実行、化学物質規制に関する第三者認証の要件を設定しています。

### <本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先>

小松マテーレ株式会社 総務部 広報課 TEL：0761-55-8070 / FAX：0761-55-8101